

前 文

1. なんごく・こうち地方拠点都市地域の整備の基本理念

近年、依然として東京圏への人口及び諸機能の過度の集中が続くなかで、地方においては、魅力ある就業機会や高次な都市機能の不足等により、若年層を中心とした人口減少が再び広がるなど、地方全体の活力が低下しており、地方の自立的な成長を促進し、国土の均衡ある発展を実現していくことが大きな課題となっている。

高知県も、本州四国連絡橋児島～坂出ルートの完成や四国横断自動車道南国～川之江間の全面開通など、本四3架橋時代の到来を間近にひかえ、中国・四国をはじめ他地域との比較と競合が一層強まることを見込まれるなど、大きな環境変化に直面している一方、昭和50年以降増加傾向にあった人口が、昭和60年以降減少に転じるとともに、平成2年には全国で唯一人口の自然減の状況に陥るなど、若者が定着できる自立的な県土を形成することが最大の課題となっている。

本計画は、こうした背景のなかで、県勢をリードする都市機能が集積している高知市と、陸・海・空の高い交通拠点性と潜在力を有している南国市を中心に、その周辺町村を含めた合わせて10市町村(2市6町2村)が一体となり、高知県の自立的成長を牽引し、県内への若者定住の核となりうる地方拠点都市地域の形成を図ることを目的として策定するものである。

2. 地方拠点都市地域の概要

1) 地方拠点都市地域の名称

なんごく・こうち地方拠点都市地域。

2) 中心都市名

高知市及び南国市。

3) 地方拠点都市地域の構成

当地域は、中心都市である高知市及び南国市、香北ブロックの土佐山田町・香北町・物部村、香南ブロックの野市町・吉川村・赤岡町・香我美町・夜須町の2市6町2村（10市町村）から構成される。

市町村名		人口（人）	人口増減率（%）	面積（k㎡）
		（平成2年）	（昭和60年～平成2年）	
高知市		317,069	1.5	144.68
南国市		46,823	△1.5	125.11
香北 ブ ロ ッ ク	土佐山田町	22,774	△3.7	116.70
	香北町	5,875	△3.4	130.37
	物部村	3,752	△12.4	291.12
香南 ブ ロ ッ ク	野市町	13,965	6.7	22.90
	吉川村	2,109	△4.7	4.25
	赤岡町	3,722	△8.6	1.64
	香我美町	6,126	1.0	58.89
	夜須町	4,742	△1.9	39.03
10市町村 (2市6町2村)		426,957	0.7	934.69

（人口：国勢調査、面積：平成2年度国土地理院資料による）

1. 地方拠点都市地域の整備の方針に関する事項

1. 地方拠点都市地域の現況

1) 自然状況

当地域は、高知県のほぼ中心部に位置し、北は四国山地、南は太平洋に面する。気候は温暖で、年間平均気温 16.3℃、平均降雨量は 2,500mm～3,500mm である。

河川は、全体として山地急流河川で、中央部に物部川、西部に鏡川、国分川があり、圏域の河川は水流が豊富である。平地は、高知市・南国市を中心に約 140k m² の沖積平野を形成している。

2) 社会経済状況

①人口・人口動態

高知県の人口は、平成2年の国勢調査では再び減少に転じるとともに、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。また、若年層（15～19歳人口）では5年間に約1万2千人が流出しており、特に若者を中心とした人口の定着が最大の課題となっている。

当地域の人口（平成2年、国勢調査）は、約42万7千人である。そのうち中心都市である高知市は約31万7千人、南国市は約4万7千人である。

人口動向を見ると、昭和45年までは、高知市を除くすべての市町村が人口減少傾向を示していたが、昭和50年からは高知市の周辺市町が人口増加傾向を示し、昭和55年以降では、さらにその外側周辺町村も増加傾向を示した。昭和50年で人口増に転じた市町は、南国市、赤岡町、土佐山田町、野市町の4市町で、野市町は住宅団地開発の影響により急増している。しかし、昭和60年からは減少傾向がみられ、昭和60年から平成2年までの人口増減率は圏域全体では0.7%増であるが、増加した市町村は、高知市（1.5%）、野市町（6.7%）、香我美町（1.0%）だけであり、他市町村は1.5%～12.4%の減となっている。

②土地利用の状況

当地域の面積は約935k m²で、その土地利用状況は、農用地約100k m²（約11%）、